

地域子育て支援拠点施設における職員を対象とした情報交換の仕組み

工藤 裕子 岡本 東 堀川 三好 菅原 光政

岩手県立大学 ソフトウェア情報学部

1. はじめに

近年、少子化や核家族化の進行、地域社会の変化など、子どもや子育てをめぐる環境が大きく変化する中で、子どもの健やかな育ちを促進することを目的として、平成 19 年度より厚生労働省の補助事業である「地域子育て支援拠点事業」が創設されている¹⁾。岩手県内には約 80 ヶ所の地域子育て支援拠点施設が存在している(2009 年 7 月 1 日時点)。

本研究では、施設職員同士の繋がりを作り、施設活動の活性化に繋げていくことを目的として、先行研究²⁾である CMS (Content Management System) を基盤に、地域子育て支援拠点施設の職員を対象とした運営状況集約システムの構築を行う。その中で、社会ネットワーク分析を用いた利用促進の仕組みを提案する。

2. 地域子育て支援拠点事業

2.1 地域子育て支援拠点事業の概要

地域子育て支援拠点施設では、子育て親子交流の場の提供や交流促進、子育て等に関する相談・援助の実施、子育て関連情報の提供、子育て支援に関する講習会の実施といった 4 つの取り組みが実施されている¹⁾。

2.2 地域子育て支援拠点の問題点

子育て支援のサービスを提供する側である施設職員の現状として、職員同士での情報交換を行う機会が少なく、各施設が閉鎖的になりがちである。そのため、孤立感を持つ職員も少なくない³⁾。また岩手県における地域子育て支援事業は、岩手県が各市町村に事業を委託し、さらに施設へ委託するという形をとっているが、この岩手県・市町村・施設の連携が十分ではないといった問題も挙げられる。

そのため、場所・距離・時間を気にすることなく情報交換を行うことのできる横の繋がり、また、施設・市町村・岩手県の縦の繋がりが必要である。

3. 情報交換の仕組み

3.1 運営状況集約システム

地域子育て支援拠点施設情報ネットワークの全体図を図 1 に示す。本研究で提案する運営状況集約システムの対象は、図 1 中の①～③となる。

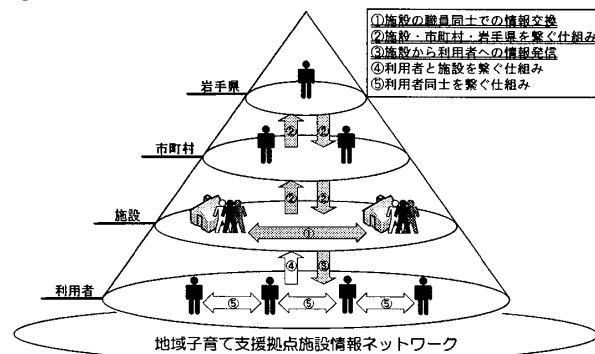


図 1 ネットワーク全体図

①施設の職員同士での情報交換

施設職員のみを対象とし、ブログ形式での記事の投稿やそれに対するコメントにより、業務上の悩みの解消やこれまで知り得なかった施設の職員との繋がりを作ることが可能となる。

本研究では、施設の職員同士での情報交換機能の構築を行った(図 2)。

②施設・市町村・岩手県を繋ぐ仕組み

施設での活動報告や CMS の利用状況から、全体の動きを集約し、市町村・岩手県と共有することが可能となる。

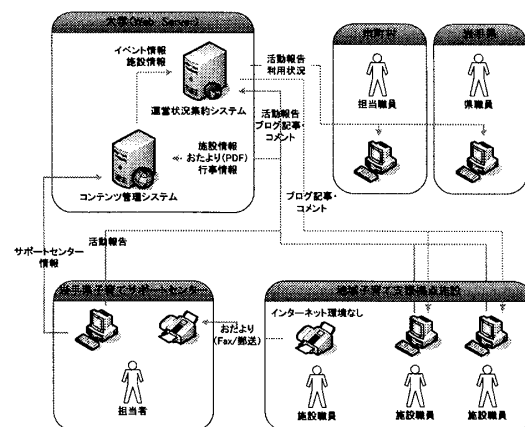


図 2 システムの概要

Structure of Information Sharing for Staff of Child Care Institutions

Yuuko KUDOU, Azuma OKAMOTO, Mitsuyoshi HORIKAWA, Mitsumasa SUGAWARA
Faculty of Software and Information Science, Iwate Prefectural University

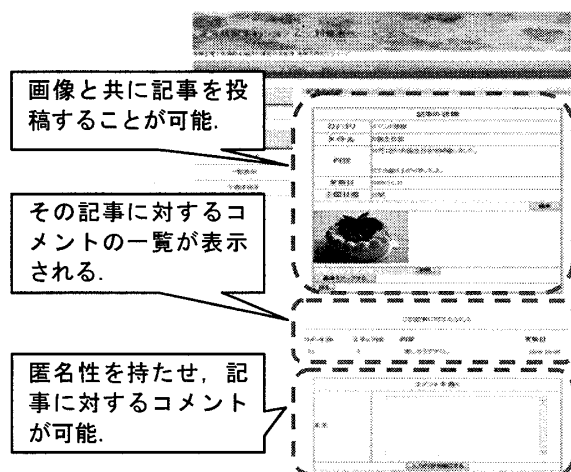


図 3 ブログ形式での情報交換画面

③施設から利用者への情報発信

運用中の CMS によって、約 80 施設中 25 施設が自主的に情報更新を行っている（2009 年 11 月 30 日時点）。地域子育て支援拠点事業の取り組みとして見ても、全施設からの情報発信が望ましく CMS の利用向上が必須である。

3.2 CMS 利用向上を目的とした分類

施設職員が発信した記事を他施設職員が閲覧、コメントを行う頻度（以下、(a) とする）と先行研究である CMS の利用頻度（以下、(b) とする）を基に施設の分類（図 4）を行い、情報交換や CMS の利用向上を促す情報の提供を行う。

また、施設の所属する市町村にも分類結果を提示していくことで、情報共有や利用促進を促す材料となり、施設・市町村・岩手県の縦の繋がりを作ることも可能となる。

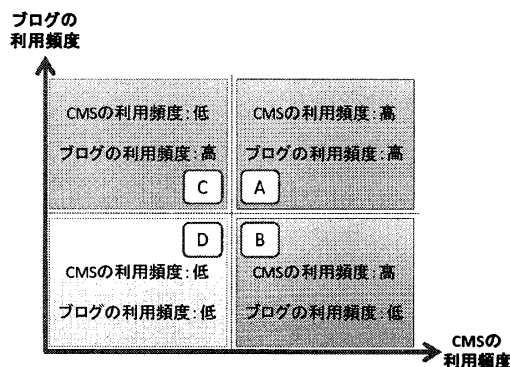


図 4 利用頻度による分類

分類 A (a) : 高, (b) : 高)

この状態の維持するための情報提供を行う。また、システムの具体的な使用の見本としての役割を果たす。

分類 B (a) : 高, (b) : 低)

ブログの利用を促すための情報提供を行い、分類 A へのステージアップを目指す。

分類 C (a) : 低, (b) : 高)

CMS の利用を促すための情報提供を行い、分類 A へのステージアップを目指す。

分類 D (a) : 低, (b) : 低)

まずブログの利用を促すための情報提供を行い、分類 C へのステージアップを目指す。その後は分類 C と同じ方法で、段階を踏んで分類 A へのステージアップを目指す。

3.3 社会ネットワーク分析の概要

3.2 で分類した結果から、ブログの利用頻度の高い分類 A、分類 C の記事の閲覧やコメントにより形成されたネットワークに対して、社会ネットワーク分析を行う。

社会ネットワーク分析とは、数学的手法を用いて、個人や集団の関係を整理し、法則性を見出そうとするアプローチである。

中心性とは、ネットワーク内の行為者において、どの程度中心的な存在であるかの度合いを測るための指標である。これにより、中心的存在とそれ以外を分け、それぞれの行為者間の影響力関係を見出すことができる。

その中心性を基に、どの施設に働きかけを行えばより有効かを判断する。

4. 提案システムの運用

提案システムは、2010 年 1 月の運用開始を目指し、現在構築を行っている。運用開始後、施設職員を対象にヒアリングを行い、有効性の検証を行う予定である。

5. おわりに

本研究では、地域子育て支援拠点を対象に施設職員同士を繋ぐ仕組みを構築した。また、社会ネットワーク分析を活用した情報提供の仕組み及び施設・市町村・岩手県を繋ぐ仕組みの提案を行った。

今後は提案した手法をシステムに取り入れ、有効性の検証を行う。

参考文献

- 1) 子育てサポートセンター：「岩手県地域子育て支援拠点づくりガイドブック」（2008）
- 2) 下堀智史，岡本東，堀川三好，菅原光政：地域子育て支援拠点の利用満足度向上を目的とした CMS の構築，平成 20 年度 日本経営工学会東北支部 卒業論文・修士論文発表会 抄録集（2009）
- 3) 太田光洋：専門家としての保育者集団の発達を支えるもの，日本保育学会 保育学研究 46(2)，pp179-188（2008）